

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
竹上 健			
授業のねらい（概要）	現代社会において、商学と情報処理の知識・技術とは密接に関連している。また社会では、高度な知識であつても大学で得ただけのものでは十分ではなく、知識を有効的に活用してさまざまな課題を乗り越えていく能力の育成が必要である。特別演習 I では、商学研究科で研究するテーマの設定、テーマ分野の実状把握、問題の認識・探知、そしてその対処法を情報処理の知識・技術と融合させながら研究していく能力の修得を目指す。具体的には、定期的に研究内容について発表してもらい、議論を通して研究の進め方、まとめ方を指導する。また、学内中間発表または学会での発表ができるように発表原稿の作成および発表方法についても指導する。		
授業計画	<p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後2ヶ月ほどで研究計画を討議し、仮の修士論文テーマを設ける。</li> <li>・学生の興味・関心を尊重しながら、研究の枠組みを構築する。</li> <li>・読むべき論文や書籍の紹介と探索を行う。</li> <li>・調査対象・調査方法の検討を行い、有効性の高い調査研究を実践する。</li> <li>・調査結果の分析、分析結果の意味付けなどの指導を行う。</li> <li>・修士論文テーマを明確化する。</li> <li>・後期末に行われる中間発表に向けてのまとめと発表の準備を行う。</li> </ul>		
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	ディプロマポリシー（修了認定・学位授与に関する基本的な方針）で述べられている「一般的及び専門的教養の基礎の上に、構造的・システマ的分析能力を身につけている」「実践的な問題解決能力及び管理運営能力を養い、知識基盤社会を支える高度で知的な素養を身につけている」「高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することができる」「調査、研究のために必要となる様々なスキルを身に付け、企業や産業が直面する諸課題に対し高度な判断能力、分析能力を活用することができる」の4項目を養成する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①研究テーマの設定とその学修計画を立て実行できる。</li> <li>②問題把握を行いその解決能力を身につけられる。</li> <li>③コミュニケーション能力を身につけられる。</li> <li>④専門的な論文としてまとめを行うことができる。</li> <li>⑤学内中間発表での発表だけでなく、可能なら学会で発表することができる。</li> </ol>		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	翌週の授業のはじめに課題などを確認しながらフィードバックを実施。		
履修上の注意	「研究目標」に関する達成感を持ち、研究の取り組み方などを体得してほしい。また週当たりに1コマの演習と考えずに随時特別演習に臨む積極性を持ってほしい。		
成績評価の方法・基準	特別演習の研究報告を中心とした平常点で基本評価を行う。また研究テーマに基づいた研究成果の報告書、学会または学内中間発表の発表原稿の内容、および発表・質疑応答の状況からも総合的に評価する。		
教科書	特に使わず、必要に応じて電子教材・課題プリントを配布する。		
参考書・教材	【参考書】必要に応じて紹介する。【教材】履修者と相談の上、決定する。		
備考	演習科目		
教員との連絡方法	電子メール（アドレスは初回の授業で通知。）		